



2013

平成 25 年

復興期

ともに苦難を乗り越え、
新しい未来へ

平成 23 年

2011

2011 [平成 23 年]

雛まつりの開催
まちなかの各家での展示が定着

毎年春に、まちなかで開催されている「雛まつり」。町の店や個人宅のお雛様を、各家で飾ってもらっています。いまでは 60軒以上に雛壇や雛飾りが飾られ、多くの人々が訪れるまつりに成長しました。飾られるのは、江戸時代から平成に至る様々な雛壇飾りや、手作り雛。雛づくりは、浪江町から避難されている方々とも協力し、また町内の小学生たちも授業で実施するなど、老若男女が町や地域の力を越え、心ひとつに取り組んでいます。

雛まつり期間中、民家で飾られた雛壇飾りを公開。

- 12月 ○ 「幸口桑折」新酒発表
- 11月 ○ 中央公民館分室の愛称が「遊學館」よもよよに決定
- 10月 ○ 相馬福島道路中心坑設置式
- 10月 ○ 桑折町地域防災訓練(平田地区)
- 10月 ○ 浪江町との災害公営住宅整備協定締結
- 8月 ○ メール観光と災害時における人道輸送の協力協定締結
- 7月 ○ 天皇皇后両陛下幸啓(町内通過)
- 6月 ○ 旧伊達郡役所保存修理工事着手
- 5月 ○ 映画「物置のピアノ」桑折町応援団設立
- 4月 ○ 上山市と災害時相互応援協定締結
- 3月 ○ 桑折町放射能対策推進町会開催
- 2月 ○ 桑折町除染対策支援事業組合設立(ラボ)策定
- 1月 ○ 桑折町総合計画「復興こおり創造プロジェクト」策定
- 1月 ○ ほく測定開始(やすらぎ園)
- 4月 ○ 復興こおり創造フォーラム開催
- 4月 ○ 4地区的仮置場説明会開催
- 5月 ○ 桑折町放射能全量検査開始
- 6月 ○ 町内除染作業開始
- 7月 ○ 上山市と災害時相互応援協定締結
- 8月 ○ 米の放射性物質全量検査開始
- 9月 ○ 七ヶ宿町・高畠町と災害時相互応援協定締結
- 10月 ○ 桑折町放射能対策推進町会開催
- 11月 ○ 桑折町地域防災訓練(薩摩川地区)
- 12月 ○ こども医療費助成制度を18歳まで拡大

2013 [平成 25 年]

- 2月 ○ 桑折町除染対策支援事業組合設立(ラボ)策定
- 3月 ○ ホールボーディカウントによる内部被ばく測定開始(やすらぎ園)
- 4月 ○ 復興こおり創造フォーラム開催
- 4月 ○ 4地区的仮置場説明会開催
- 5月 ○ 桑折町放射能対策推進町会開催
- 6月 ○ 中央公民館開館
- 7月 ○ 上山市と災害時相互応援協定締結
- 8月 ○ 七ヶ宿町・高畠町と災害時相互応援協定締結
- 9月 ○ 町内除染作業開始
- 10月 ○ 上山市と災害時相互応援協定締結
- 11月 ○ こども医療費助成制度を18歳まで拡大
- 12月 ○ 食品放射能測定開始(桑島分厅舎)

2012 [平成 24 年]

東日本大震災と原発事故災害により、本町を取り巻く環境は激変してしまいました。この未曾有の大災害を克服し、やすらぎと希望に満ちた「こおり新時代」を目指して確かな復興を図るために、平成24年2月に「復興こおり創造プロジェクト」を策定。「町民の安心なくして復興なし」「町民の健康なくして復興なし」を3大スローガンに掲げ、町民全てが安心して将来にわたり住み続けられるまちづくりを進めています。平成23年には近隣市町に先駆けていち早く仮設住宅を建設しました。また、食品放射能濃度測定を開始しました。平成24年3月にはホールボーディカウントによる内部被ばく検査、7月からは仮置場が設置された地区から除染作業が開始されました。

未曾有の大災害を克服し、やすらぎと希望に満ちた「こおり新時代」をめざして

旧伊達郡役所復旧

東日本大震災により大きな被害を受けた、町のシンボルである伊達郡役所。修復にあたっては「原状回復を行ひながら、今後伸び大地震に見舞われる」とがんばってでも大破しないよう、文化庁の指導の下、耐震補強を施しながら、重要な保存修理工事が行われ、震災から丸3年後の平成20年4月、ようやく再びその威容を現しました。